

平成28年1月15日発行

RIKKO SEKAI No.1069 力行世界 平成28年1月15日発行 (1)

2016年

1月号

年4回発行(1.4.7.10月号)

No.1069

(学法)日本力行会

力行世界

R I K K O S E K A I

祝 第83回 力行祭



2015年 11月7日 第83回 力行祭

創立1897年1月1日



目次

力行祭.....	2~4	書籍紹介・留学生情報.....	9
イヤーエンドパーティー.....	5	交流サロン.....	10
りっこう幼稚園だより.....	6~8	会員だより.....	11
運動会・さんままつり.....		会員ご案内.....	12
いもほり遠足・収穫祭・クリスマス会.....			

日本力行会恒例行事

第83回力行祭

—11月7日 成功裏に幕—

当会の恒例行事である「第83回 力行祭」が、去る11月7日（土）に開催され、学校法人になって初めて、かつ新園舎建設での限られたスペースでありながらも、多くの参加者が集い、大盛況のうちに幕を閉じた。

各種行事が重なったことから、今年は11月3日の文化の日以外での開催日で、多少人手が少なくなるのではないかと危惧はしながらも、記念式典には、3年前よりお願いしている幼稚園行事の敬老会にご参加頂いた園児の祖父母の方々に式典参加のお願いを告知したところ、今年も沢山の方々がご参加頂き、また、多くの力行会関係者及びチアリーディングダンスご父兄にも早々に参加お願いをしていたため、式典会場には満席の賑わいを見せ、村上理事長による学校法人移行後初の力行祭であること、及び新園舎建設の経緯及び進行状況説明を行った後、尾山牧師による「固定観念を捨て、可能性を信じて物事に取り込むことの大切さ」をテーマとした興味深い講話や、佐藤小竹町会長他ご来賓の今後の力行会へ期待を寄せたお祝い、幼稚園園児や卒園生らによるチアリーディングダンス、幼稚園PTA有志によるコーラスのアトラクション、また園庭や園舎にて同時開催のバザーや模擬店では、開始早々沢山の方々が長い列を作り、手作り品やゲームコーナーにてお楽しみ頂き、PTAや会館留学生達の模擬店料理や、来て、見て、食べて、楽しい、十分に五感を刺激した今年の力行祭だったといえよう。

今回の開催に当たり、多くの関係者よりご支援を賜ると共に、実施の早い段階よりご協力頂いた力行幼稚園PTAの力行祭準備委員の方々、おやじの会の皆様ほか、ご協力頂いた皆様



に心よりお礼を申し上げると共に、以下、ダイジェストにて、当日の様子をご報告いたします。

記念式典

村上理事長より、83回目の力行祭を無事開催できたことに感謝し、ご来会頂いたご来賓の方々や関係団体及び幼稚園関係者並びに当会役員のご出席にお礼と先人の偉業に感謝し、長い歴史と伝統の重みを噛みしめると同時に、昨年12月より学校法人化が完了して今年初の力行祭を迎え、新園舎建設までの経緯と進行状況、更にはその後を見据えた学舎としての力行会を「新時代に即応した、人づくり」の場

として今後も発展させていく事などについて、抱負と決意を語った。続いての記念礼拝では尾山清仁牧師の進行で、参加者全員で会歌「力行奮闘の歌」を歌い、尾山牧師の記念講話「固定観念を捨てる」を拝聴し、本年度の会員・会友の逝去者報告と厳かに進み、記念礼拝の最後として逝去者への祈祷を行った。また、ご臨席頂いた来賓より、小竹町会の佐藤会長より、今後も地域の人づくりと共生の場として活躍を期待する旨のご祝辞を頂いた。





式典後半では、例年ご好評を頂いているりっこう幼稚園在園児及び卒園児らにより構成されたチアリーディングダンス・チーム「BURNERS Jr. チアリーディングクラブ」による、かわいくて、華やかなチア演技は、さらに技に磨きがかかり、今年も大好評、今回も出演者児童の父兄のみならず、この日のため遠路はるばる来会頂いたお爺ちゃんやおばあちゃん達も多数ご覧になり、会場中が大変華やかな雰囲気、拍手喝采、盛り上がりを見せていたのが印象的であった。

お昼休みの アトラクション

昨年、初の試みとして、幼稚園園庭の小ステージで、地域の文化発表の場としての野外アトラクションを実施したところ、大好評を得、今年も是非やって欲しいとの要望が沢山寄せられたことから、新園舎建設中というスペースの限られた状況の中、今年は国際館・地下ホールにその場所を移し、ランチタイムのひとときを幼稚園PTA有志により結成された「りっこう幼稚園プレイズチーム」(新園舎起工式の際に

もお越し頂いた際、大好評、再度の講演を依頼され快諾の出演に感謝)による素敵な歌声のコーラスと、記念式典でもご協力頂いた「BURNERS Jr. チアリーディングクラブ」による、チアリーディングダンスを実施、狭い地下ホールには、身動きが出来ないほどの観客が会場に集まる盛況ぶりを見せていた。

今回も多くのお客様と反響があったことから、次年度新園舎完成後には規模も大きくして多彩な内容を提供していく意向である。



力行祭 感想

こんにちは皆さん！ タイ代表のトゥープティアンラット ナパツソンです。

9月の下旬から力行会館に住んでいます。日本に来るのは初めてです。今までいろんなことにあって、いろんな事をして、いい経験になりました。

その中には力行祭というイベントに参加した事です。力行祭で各国は自分の国の料理を作って売っていました。料理が得意な会館生が国の代表とチームを作って、メニューを決めて、必要な材料を考えて、また、売上原価を計算して、力行会館のスタッフさんに伝えました。100人以上が食べられる料理を作った事がある私達で、できるかどうか自信が持っていなかったです。

何をするか友達と相談して、パッタという有名なタイ料理を作りました。



日本に来て以来、もう3カ月になった。この間に、一番思い出深いことは力行祭だった。

私の住んでいる力行会館は幼稚園もあるし、可愛い子ども達がいっぱいいる。そして、子ども達のために、毎年力行祭を行う。それで、今年の11月7日に私達も初めて中国チームとして参加した。

料理が苦手な私達は、中華料理を作らなければならないので、皆さんが一生懸命にメニューを考えて、作った。そして、リテイさんがとても綺麗な中華風のポスターを徹夜して作ってくれた。

料理について、最も簡単なのはお茶玉子だった。水にお茶と調味料を入れて、卵と一緒に長い時間を煮て、とても美味しくなってきた。他に、揚げパン、クレープ、バナナ揚げ、コロッケ

たが、材料が多くて、値段が高くて作り方も難しくて、パッタの代わりにガバオライスというタイ料理とガーリックチキンを作りました。

今年の力行祭は11月7日に行われることになりました。

その日の前、材料を買って、タイ会館生の人々と一緒に台所で鶏肉にんにくを切っておきました。他の国の会館生も台所で自分の国の料理を準備していました。みんなと話しながら準備してとても楽しかったと思います。そして、当日朝5時に起きて、準備しておいた材料でガバオライスとガーリックチキンを作りました。100人分のための料理は多いので、ちょっと心配しました。でもやっとギリギリ間に合いました。

最初、タイ料理は人気がないようでしたが、昼になるとお客さんがたくさん来ました。お客さんに美味しかったと言われてとても嬉しかったです。ガバオライスもガーリックチキンも全部



も準備した。

いよいよ、力行祭の日が来た。朝から、いつも静かな小竹町は急に賑やかになってきた。いつのまにか、寮の前の広場にたくさんの人々が集まってきた。特に、可愛い子ども達はいっぱいいた。

他のチームは色々な食べ物を売っていた。私達は自分の料理に自信を持っていなかったので、本当に緊張した。最初はあまり売れていなかったけど、ウカさんのおかげで、少しずつ売れた。しかし、意外に、一番人気があったのは揚げパンとバナナ揚げであった。お茶玉子は全然売れなかった。ああ、大失敗だ。

どうしてこんなに美味しいのに、人気がないの。それに対して、力行会館のスタッフ達からアドバイスを受けた。『色が濃いので、ちょっと変だ。』『剥

売り切れました。

力行祭でアメリカと中国の料理と焼きそばを食べました。とても美味しかったです。ブラジルの料理も食べたかったのに、全部売り切れてしまいました。

イベントが終わった後で、使う道具を洗って、片付けました。

そして、スタッフさんと会館生のパティがありました。

みんな力行祭の前の日からいろんな準備をして、当日も朝早く起きて、料理を売って、とても疲れましたが。お客さんが私達の料理を食べて、笑顔で美味しかったと言われると、それだけでもう疲れなかったです。

力行会館が機会をくれて、ありがとうございました。また、来年の力行祭も楽しみです。

トゥープティアンラット ナパツソン
Thuptianrat Napatsorn
会館生タイ代表者



き難しいじゃないの?』本当にありがたいアドバイスだった。

ついに、お祭りが終わった。皆さん、大変疲れたが、スタッフから助けをもらって、掃除と整理もスムーズに完了した。とても充実して楽しかった。

中国のチームメンバー全員は力行会館のスタッフ達に本当に感謝している。m (_) m

筆者 賀嬌&コウ テイイク



イヤーエンドパーティ



去る12月19日に開催されたイヤーエンドパーティーの司会者の一人として参加させていただいた、会館生ブラジル代表の草場マリアナです。

パーティ開催の約一ヶ月前から、会館生たちと力行会の事務局の方々と一緒に準備を進めてきたイベントでした。当日の朝早くからも、料理を作ったり、会場の準備や飾りつけなどがあり大変でしたが、皆で頑張った甲斐あって、あっという間に終わりました。

ブラジルの会館生手作りの揚げ料理「パステル」や、お寿司、ピザなどの色々

なご馳走が並んだテーブル、そして、会館生の飾りつけで彩られたパーティ会場はとても綺麗でした。

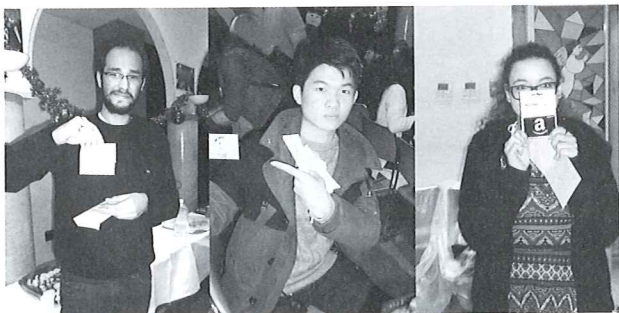
パーティ終盤では、椅子取りゲームとビンゴ大会で大盛り上がり！アメリカからの留学生、ムーア・ケラー君が用意してくれた素敵な音楽にノリながら、会館生だけでなく、ボランティアの方々にも楽しんでいただくことができました。ビンゴ大会の景品は、ちょっと豪華なものから、ちょっとハズレのものが混じっており、面白いものばかりでした。

何人かのアメリカの留学生にとっては力行会館での最後のイベントでしたが、参加者全員にとって忘れられない思い出となったでしょう。

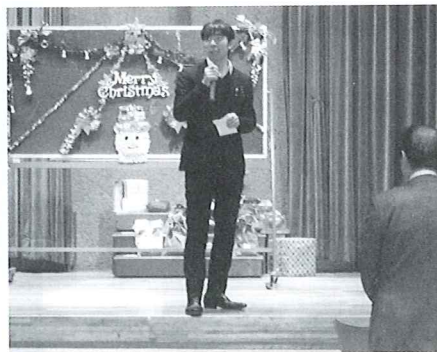


代表の挨拶

草場マリアナ



白熱のいす取りゲーム



学校法人 **りっこう幼稚園だより**

運動会

もも組 松尾 涼子

10月10日、気持ちの良い秋晴れの中、運動会を行いました。今年度は園舎改築中のため園庭が手狭な中での開催となりましたが、たくさんのお客様の歓声や応援をうけ、子どもたち1人ひとりが存分に力を発揮できた1日になったことと思います。

初めての運動会を迎えたももぐみさん。緊張や不安な気持ちもある中「力を合わせてエイオー！」を合言葉に友だちと一緒にかけっこや玉入れに取り組んだり、おうちの方と一緒に親子リズムを楽しむ姿がありました。

すみれぐみさんは毎日のお弁当の後にも練習したマット運動をはじめ、みんなで力を合わせたつなひきなど力いっぱい取り組み、大きな成長ぶりを見せてくれました。

そして、3年間の集大成を見せてくれたゆりぐみさん。組体操、プレイバルーン、リレー…1つひとつの競技に緊張感と集中力をもって取り組む姿は大きな感動を与えてくれたと共にも

ぐみ・すみれぐみの子どもたちや保護者の方々は1年後2年後に期待感を抱くことができたのではないかと思います。

翌週には各学年のリズムを見せ合ったり「運動会楽しかった！」と余韻に浸る姿も見られそれぞれの心に残る運動会だったことが伝わってきました。自分の力を出し切る満足感や、友だちと力を合わせる達成感など、運動会で

体感したことが今後の1人ひとりの成長につながっていくよう願っています。

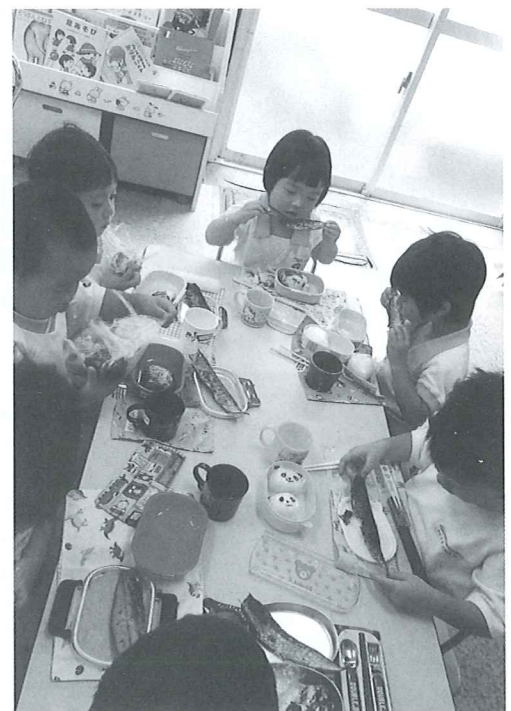


さんままつり

もも組 唐沢 美海

10月23日、さんままつりを行いました。「今日はさんままつりだね！」と朝からわくわくの子どもたち。さんまの入った箱をみつけると「わぁー!!」「こんなにいっぱい！」と目をキラキラと輝かせていました。お部屋の窓が煙で真っ白になり、さんまの焼ける良い匂いがしてくると「お腹へってきちゃった」「早く焼けないかなあ」「いっぱいいたべるんだ！」と今か今かと楽しみに待っていました。「いただきます」をすると大きく口をあけてかぶりつく子、骨がついてないか慎重にさんまの身をほぐす子、お友だちと見せ合い、美味しさを一緒に味わう子…一人ひと

りの様々な姿が見られました。年少組は骨なしの半身を頂いたのですが、「おいしい!」「もっと食べたい!」「おかわりください」の声が聞かれ、おかわりのさんまをみんなで分けあい、美味しく頂くことができました。「ごちそうさま」の後、焼いてくださった園長先生やお手伝いの保護者の方に「美味しいさんまをありがとう!」「また焼いて下さい!」と子どもたちがすすんで感謝の言葉を伝えていました。これからも神様が与えてくださった自然の様々な恵みに感謝して過ごしていけるよう願っています。



いもほり遠足

ゆり組 土肥 菜那実

11月6日、全園児で川越のあらはた園にいもほり遠足に出かけました。行きのバスの中は、「大きいおいもがいいな!」「ママがおいも好きだからたくさん掘ってくるんだ!」と、楽しみな気持ちで溢れていました。いも畑に着き、「いもほり頑張るぞ!おー!」の掛け声で、いも掘りスタートです。「見て!こんなに大きいのがあったよ!」「僕のはいっぱいくっついてるおいも!」「私のはかわいい赤ちゃんおいも!」…と、畑のいろいろな所から明るい声が聞こえ、自分の手で掘り出したおいもが特別であることがよく伝わってきました。今年もゆりぐみは、大根の収穫をさせて頂きました。「お店のよりも大きいね!」「こんな大きい見たことないよ!」と立派な大根に驚いていた子どもたち。「大根のお

味噌汁いっぱい食べられちゃうね!」「サラダも食べられるよ!」と、土がついた大きな大根を一生懸命抱え、大根の料理を話し合う子どもたちの姿に、心があたたかくなりました。お弁当ピクニック・クラスを越えてのおやつ交換も楽しみ、午後は雑木林散策にも行きました。たくさんのどんぐりを拾い、「分かれ道!こっちに進もう!」と、園庭では味えない探検気分もお友だちと楽しめたひとときでした。全身で自然と触れ合え、収穫の喜びを感じたいもほり遠足。神さまからの溢れる恵みに感謝しながら、毎日を過ごしていきたいです。



収穫感謝祭

もも組 楠家 早織

11月16日に収穫感謝祭を行いました。チャペルで礼拝を始める前に一人ずつ「いつもたくさんの恵みをありがとうございます」とお祈りをしながら家庭から持ってきたみかんを祭壇へ捧げて着席しました。みかんのほかに、遠足でゆり組が抜いてきた大根やさつまいも、いただいたかぼちゃ、幼稚園でとれたくみも祭壇に捧げ、チャペ

ルは沢山の秋の実りで賑やかになりました。

礼拝後、園庭へ出ると園長先生をはじめ先生たちが大鍋2つでも煮を作る様子に「わあ〜、いい香り!」「近くはあったかいね。」「もう出来た?」「早く食べたい〜!!」と、完成が待ちきれない子どもたちでいっぱいでした。

いよいよ、お弁当の時間。ゆり組がもも組とすみれ組の部屋に分かれ一緒に食べました。「いただきます」と挨拶をして、おにぎりとお出来立てのいも煮を味わいました。「あつあつだね!」「にんじんがハート型だったの」「大きい里いもが入ってた、ラッキー!!」「今日はこの野菜持ってきたよ」と会話を弾ませながら、時には「おかわり、ある?」と何度も空になった器を先生のもとへおかわりをもらうため行列を作った

り、「苦手なんだけど…がんばる!」と挑戦する姿もありました。いも煮とおにぎりを食べ終わってから、礼拝で捧げたみかんもいただきました。「おいしかったね!」「今日は5杯も食べたよ!」「また食べたいなあ…」とつぶやく子どもたち…。

日頃様々な恵みをくださる神様に感謝し、みんなでごはんを食べる楽しさやあたたかさを共有する一日を過ごすことができました。



クリスマス会

すみれ組 松本 菜摘

12月15、16、17日にクリスマス会を行いました。初めてのクリスマス会にドキドキしながらも「メエメエメエ」と個性豊かにひつじになりきる喜びを味わっていたのもぐみ。一人ひとりに神様から役を与えられ、イメージを膨らませながら取り組んだすみれ、ゆりぐみ。どの学年もひとつひとつの役を大切にしながら準備をしてきました。本来のクリスマスの意味、アドベント礼拝での天使や羊飼いの話を聞くと「へえー！」と驚く姿も。クリスマス会が近づくと「あと何回寝たらクリスマス会？」「はやくやりたい！」「今日は〇〇の歌歌おう！」と聖劇を楽しみにしながら本番が待ち遠しい子どもたちでした。当日はたくさんのお客様に見守られ温かい雰囲気の中で、イエス様のお誕生をお友だちと一緒にお祝いすることができました。また、舞台に立つ一人ひとりからその喜びも伝わってきました。終了後のお客様からの



拍手には子どもたちの顔もとても誇らしく、自信たっぷりの表情を笑顔を輝かせながら見せてくれました。これまでの準備や葛藤が子どもたち一人ひとりの自信へと繋がったのだと感じます。温かい気持ちでお友だちと一緒に

演じる楽しさ、喜びを味わった子どもたち。一人ひとりがキラキラ輝いていた3日間でした。これからもお友だちと様々な思いを共有し、今日のような温かい気持ちで毎日を過ごせるよう願っています。

練馬区私立幼稚園協会講演会国際館地下ホールで開催

当会国際館地下ホールでは、5年前から年2回～3回、練馬区幼稚園協会主催の講演会を開催しており、練馬区の幼稚園教諭の研修の場になっています。

平成27年6月24日に今年度1回めの



講演会で、好評だった松居和先生（音楽家・元教育委員長）に12月9日に第2回めの講演、「子育ては、人類のかすがい」～これからの幼稚園の役割～というテーマでお話をしていただき、当日は、練馬区内の幼稚園教諭95名が聴講しました。今、保育園に育児の依存をして、子育てをしているという意識がない母親が増えており、保育者にしつけられた子は、4年生でキレするという傾向もある。5歳までは、親が育つ時期。親が子育てを楽しめる幼稚園、



親に保育の楽しさをみせることの大切さについてお話をうかがいました。これからの幼稚園の役割について学ぶ大へん貴重な機会をもつことができました。（文責 角井）

当地の名作、初の直訳に 「ぼくのオレンジの木」

当地の名作小説「メウ・ペ・デ・ランジャ・リマ」の日本語訳『ぼくのオレンジの木』（ポプラ社、302頁）が発売されている。翻訳した永田翼さん（ブラジル力行会理事）と松本乃里子さんが来社、思いを語った。

同作は著者のジョゼ・マウロ・デヴァスコンセーロスの半自伝的な作品で、90年以上前のリオを舞台に、感受性に満ちた5歳の少年ゼゼの成長を描く物語。68年の発表以降、世界中で愛される。日本でも過去に英語版から

の翻訳が発表されているが、原作からの直訳は初めて。

永田さんと松本さんは「原作は非常に複雑な文体で書かれている」と話し、その味を翻訳にも出すことに苦心したという。「読むほどに人間そのもののへの理解が深まる。子どもはもちろん大人にこそ読んで欲しい作品になった」と自信を語った。

各日系書店で発売中。なおニッケイ新聞編集部でも取り扱っている。



作品の表紙（公式サイトより）

留学生情報

始めまして、10月に力行会の皆さんに調査協力をして頂いた日本工業大学4年の森滉平です。

私は現在、人間中心設計研究室に所属しており、卒業研究として「外国人のための行動補助ツール」の研究をしています。

この研究を進めていく中で、9月に日本人間工学会アーゴデザイン部会が主催するコンセプト事例発表会という発表会に、発表をさせていただく機会をいただくことができました。そこで発表し出会えたのが、現在芝浦工業大学に通っているマリアナさんです。

それまでの私は、身の回りに外国人の知り合いが少ないことでアンケートやインタビューといった、調査をした人数が少ない事や調査した外国人の方の出身国に極度の偏りがあることに悩んでいました。するとマリアナさんは、発表を終えた私に「現在私は寮に入っており、周りに外国人の知り合いがたくさんいるので調査したい場合は協力しますよ。」と、言ってくださったのです。私はとても嬉しくこのチャンス

を逃すまいとすぐに調査の協力をお願いしました。その後何通かの連絡を取り合った後、調査当日を迎えました。寮の最寄りの駅でマリアナさんと待ち合わせし寮へ向かったのですが、今まで外国人向けの寮に入ったことが無い私は少し緊張気味で寮に向かいました。寮に到着し、マリアナさんに案内されるがまま中の方に入っていくと食堂のような共有スペースに着きました。そこで取りあえず、調査の準備をしたり、ここで働く山本さんに挨拶と調査の趣旨を説明しに行くと、山本さんの方からは、私がこの寮について全く知らなかったのを、寮について様々な事を教えていただきました。すると、この寮はとても歴史がある事と説明を受けとても驚きました。そうこうしていると、授業を終えた皆さんが来たので調査を開始しました。当初の予定では、マリアナさんが声をかけていただいた3、4人の方に調査をする予定でしたが、他の方々も調査のことを説明すると快く引き受けて下さり、飛び入りで調査に協力していただくことがで

きました。調査では、先にアンケートを書いていただいたのですが、アンケートに回答中の皆さんは笑顔が絶えず和気あいあいと話し合う様子を見てとても明るくて仲がいいんだな。という印象を受けました。その後のインタビューでは、皆さんが様々な国からきている留学生ということで、やはり文化の違い等から日本人ではあまり経験しないような皆さんの貴重な経験やその時の気持ち等を聞くことができました。

今回の調査で力行会に入っている皆さんには、調査に協力していただいただけでなく、皆さんの明るくて生き生きとした様子を見て私自身もやる気と元気をいただき、これからの日本でも皆さんのように出身国は違っていても、仲良く笑いあえる国になれるよう、文化が違ってても話す言葉が違っていてもみんなが間違えないで互いに嫌な気持ちにならないで済むようなツールの研究をこれからも頑張っていこうと思います。

先日は、調査に協力して頂きありがとうございました。

力行交流サロン

茶道交流会

去る10月24日（土）力行国際交流サロンで、毎年、お世話になっている立教大学の茶道部員8名にご尽力頂き「茶道交流会」を開催しました。

当日は、当会館日本館の和室を会場に、サロンスタッフの上田様、空花様、大矢様のご協力下さり、タイ、中国、台湾、ブラジル、メキシコ、ブルネイ出身の総勢21名の会館生が参加しました。

お茶会は、1回7名ずつ、3回に分

けて行われ、各回共、開始15分前に食堂で受付、開始時間に茶室に席入りする形で、進行しました。急用で不参加の人、飛び入り参加の人もいたのと、遅れて参加の人もいて、バタバタしたのにも関わらず、スタッフの方々の迅速なご対応と、茶道部員の皆様の快いご対応に滞りなく進行する事が出来ました。

誌面にて、お礼をお伝えさせて頂きますのと、今後共、暖かいご支援の程、



お願い申し上げます。また、皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

最後になりましたが、立教大学茶道部の一年生のお二人、水岡夏希様、鈴木萌子様と、参加の会館生を代表して、中国の孫 成君より感想を書いて貰いましたので、紹介させて頂きます。

立教大学茶道部の水岡夏希様、鈴木萌子様のご感想文です。 (順不同)

●この度は力行会の茶道交流会に参加させていただき、ありがとうございます。とても楽しい時間を過ごすことができました。

わたしが交流会に参加しようと思ったのは、留学生と交流してみたいと思ったからです。また、留学生の方々と一緒に日本の文化である茶道をやりたいと思ったからです。

わたしも今年から茶道を始めたばかりで、茶道という共通のものに興味を持ってくれたことをうれしく思いました。

た。それとともに、知ってもらうのは少し難しくて、まだまだ茶道について知らないことがたくさんあると実感したので、もっとお稽古をして精進していきたいと思いました。

また、留学生とお話ししていく中で、外国の文化と日本の文化の共通点などを知ることができておもしろかったです。お菓子もとてもおいしかったです。

●「茶道交流会」に参加させて頂き、楽しい時間を過ごさせていただきました。

今回、私は3番目にお点前をさせて頂いたのですが、立教大学茶道部に入

部して以来、部員以外の方々の前で点前をするのが初めてだったので、初めは緊張してしまいました。ですが、部員からの説明に、興味深そうに耳を傾けてくださっている皆さんの様子を見て、私自身もお点前を通じて茶道の良さを伝えられたらと、楽しんでやらせていただくことができました。

実際にお茶を点てる時には、初めてにも関わらず、上手に点てられている方が多く驚きました！

一緒に話をしたり、写真を撮ったりと、とても充実した時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました！



「茶道体験について」

孫 成

僕は大学時代からお茶に興味を持っているので、今週の土曜日に留学生たちと力行会館で開催された茶道教室に参加した。

大学三年生の時、半年ほど茶道を学んできたが、今回の体験を通して、より一層多くの茶道文化への理解を深めた。

今度の茶道体験は私たちにお茶の文

化を教えてくれただけでなく、それぞれの国から留学生たちのために良好な友人と付き合うプラットフォームになったと思う。私たちは古式ゆかしい和室でちょっぴり苦いお茶と美味しい茶菓子をいただきながら、日本の伝統文化の「お茶」の作法を学んでいた。そして、立教大学の茶道部からの学生達は私達に茶道精神「和敬清寂」と煎茶マナーを解説してもらった。最後、

力行会館の先生たちと記念写真を取り、楽しい思い出のひとつとなった。

時間が経つのははやいもので、イベントの終わりが近づいた。私は新たに日本茶道への学びを始めたばかりである。また、日本文化への理解の第一歩でもある。

海外会員の便り
年賀状

いかに幸いなことか 主の教えを愛し 其の教えを昼も夜も口ずさむ人。

希望と未来の映像を総合すれば 信念となり、
信念と忍耐あれば、親愛なる未来へと繋がります。

皆様には佳いクリスマスと愛あふれる2016年を切望致します！




謹賀新年
謹んで年始のご祝詞を申し上げます。
旧年中は当協会へ格別のご厚情を賜り、ありがとうございました。
今年も変わらぬご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

2016年 元旦

オキナワ日本ボリビア協会
会長 中村 侑史
他 役職員一同



会員だより

力行会を通してブラジル移住した田中敏之です。
昨日2016年度カレンダーを受け取りました。

毎年美しい日本の風景のカレンダーを送って頂き誠に有難う御座います。

妻イダイルも3回ほど訪日して、すっかり日本最奥になっていますので、大喜びで日ごとの計画等も直接書き込み毎日美しい日本の風景を懐かしく鑑賞しています。今年教会のクリスマス礼拝でヘンデルのメサイアの内6曲ほどコーラスで歌う事になっていまして例年の如く私もテナー、妻もソプラノで参加していますので来週からはその最後の仕上げの練習で忙しい夜が続きます。どうか皆様も良きクリスマスと新年をお迎え下さい。

田中 敏之 (ブラジル会員)

2016年の美しいカレンダーありがとうございます。
ブラジルの近況、中国寄りのジウマ大統領は等々2度目の訪日ドタキャンにはガッカリしています。
国内の景気が悪くなり、国民が暗く、あの陽気は何処に行ったのだろう、治安が悪くなり、驚いているこの頃です。

おまけに天候不順、特に私の住むリオグランデ・ド・スール州は雨が多く、しかも暖冬、日照不足で農作物類に被害が出ています。

力行会の会員の中に力行精神のある人が結構多い、おの移住講習は素晴らしかったと今、心から感謝しています。力行会の発展を心から祈っています。

ブラジル・ポルトアレグレ在住 原 英春

新園舎建設 遂に屋上部の工事まで進行中



日本力行会機関紙「力行世界」 定期購読会員ご加入のお願い

拝啓 春風駘蕩の候 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当会はお陰様で創立119年を迎えました。「日本民族の霊肉救済」を旗印に、苦学生及び渡米希望者に支援や便宜を与え、さらに青年の移住斡旋や現地教育にも傾注し、北米、中南米、東南アジア、旧満州へ約3万人の移住者を送り出し今日に至っております。

創立80周年には、記念事業として創

立理念をさらに発展させ、“世界と日本の架け橋となる人材育成”“海外同胞との連携強化”などの実現を目標に、留学生会館・「国際交流会館」を新設し、各国からの留学生を迎え、日常生活を通して日本文化を習得しながら修学や研究に励めるような環境づくりと支援活動を続けて参りました。

ご賢察の通り、この約40年間に円価値の激変などの日本経済及び世界的位置づけの変容により来日に感謝すべき時代を迎えた今、留学生の来日数や留学目的も変わり、公益の法人といたしまして資力不足ながらも、関係先との諸問題の解決や支援活動の強化や充実

にも拘らず、在日留学生の生活環境はまだまだ十分と申し上げる状況ではございません。

つきましては、より積極的な国際交流の継続をご理解頂き、当会活動理解の為、『日本力行会機関紙「力行世界」定期購読会員』のご加入を頂きたくお願い申し上げます。また、ご友人や国際交流に関心を抱かれている方々へのご紹介も合わせてお願いいたします。

末筆に成りましたが各位の益々のご健勝と弥栄を祈念いたしております。敬具

『日本力行会機関紙「力行世界」定期購読会員』制度についてのお知らせ

個人会員 年額一口 ￥3,000円

法人会員 年額一口 ￥20,000円

《口数の制限はございません。会員期間＝平成28年4月1日～平成29年3月31日》

(会員特典)

★各種講演会などの行事のご案内

★機関誌「力行世界」のお届け

★ゲストルームの優待宿泊利用（一泊4,000円を500円引き年間7泊まで）

(ご送金方法)

同封の郵便振替用紙をご利用ください。

(口座番号が変更となっております。ご注意ください!)

平成28年1月15日発行
年4回発行(1・4・7・10月号)
発行

(学法)日本力行会

〒176-0004

東京都練馬区小竹町2-43-12

電話 03-3972-1151(代)

FAX. 03-3972-1264

E-MAIL: rikko@rikkokai.or.jp

ホームページ

<http://www.rikkokai.or.jp>